

第3回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事録

開催日時・場所	<p>日時：令和6年2月16日（金）13:30～15:30</p> <p>場所：飯南町役場本庁舎 2階大会議</p>
議 事 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 庁内での検討報告 <ul style="list-style-type: none"> ・今後注力が必要な政策 ・今後10年間で重要な地域課題解決のための取組 (2) 基本構想の検討について <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本理念と将来像について 2) 将来像を実現するための大切な考え方について 4. 閉 会
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事次第 ・飯南町総合振興計画等策定委員会 委員名簿 ・第2回策定委員会_議事録 ・資料1：今後注力が必要な施策と今後10年間で重要な地域課題解決のための取組 ・資料2：今後10年間で重要な地域課題解決のための取組 ・資料3：基本構想に関する検討 ・第4回委員会日程調整表



委員会の様子

【出席者名簿】

順不同 ◎委員長、○副委員長

番号	所属団体組織等		委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司	◎
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子	
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登	
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登	
5	飯南町 PTA 連合会	会長	三上 昭彦	
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	徳永 光子	○
7	山陰中央新報社	編集局次長	万代 剛	欠席
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太	
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知	
10	住民委員		大嶋 孝子	欠席
11	住民委員		影山 和典	
12	住民委員		芥川 優子	
事務局	まちづくり推進課	課 長	藤原 清伸	
		課長補佐	関島 哲郎	
		主 幹	岡田 祐也	
		主 幹	森山 雄三	
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	技術部 部長	大内 智弘	
		技術部計画課 計画第2課長	實重 彩香	
		技術部計画課 技術員	上代 美帆	

【議事録】

1. 開 会

2. 委員長挨拶

石橋委員長	<p>年が明けて早いものでもう1ヶ月半経った。昔から1月2月3月は行く逃げる去ると時間が経つのが早いと言われており、本当に早く感じている。</p> <p>今年は1月1日に能登半島で地震があり、何とも言えない年明けを迎えた。本来であれば元日の夕方は普段なかなか会えない家族や親戚、親しい昔の友人と楽しい時間を過ごす1年で最も穏やかであってほしい時間帯に地震が直撃して、本当に大変な思いをされている。1ヶ月半経ったが、まだ大変な状況が続いており、そういうことを考えると、普通に暮らしていることが偶然の積み重ねだと感じている。</p> <p>本日は今年に入って最初の委員会である。事務局で考え方を整理していただき、大分形が見えてきたと思う。委員からのご意見いただきながら少しでも良い方向に進めていきたい。</p> <p>3回目で慣れも出てきて、それぞれ得意分野がある中で、何回も同じメンバーで議論すると同じ内容を堂々巡りすることが多々ある。それも大事なことだが、この会ではできるだけ色々な考え方を出していきたいと思っており、自分が得意でない分野の事も他の委員さんに聞いてみる等、遠慮なく発言していただきたい。意外と専門でない方が面白い考え方や常識から離れて気づく部分もあると思うので、勇気を持って発言していただき、聞かれる方もそれを素直に受け止めていくような会にしたいと思う。</p>
-------	---

3. 議事

(1) 庁内での検討報告

(事務局説明記録省略)

三上委員	資料1 政策分野3の産業について、産業振興課の配分理由に、「農林業商工業が盛り上がれば、その他の分野は必然的に活性化すると考えられる。」と記載があるが、なぜそうなるのかイメージできない。根拠を詳しく説明していただきたい。
事務局	<p>意見は庁内の職員間の意見で、この先の詳細な理由までは把握していない。本日の取りまとめとして考え方が必要であれば、次回までに確認する。</p> <p>職員の思いを書いており、私がそれを代弁できる情報を持っていないので答えられないが、まちづくり推進課だとしたら、移住・定住に力を入れて、子育て支援に町として取り組んでおり、今年も住みたい田舎ランキングで1位を獲得して、p.2でも教育・文化・子育てが1位になっており、評価が高いので当然重要であるが、その先の移住後の仕事が課題と感じている。どちらが先かということ</p>

	<p>もあるが、産業、就労にも力を入れていかないといけない。想像もあるが、そういう思いで答えてもらったと思う。</p> <p>資料2の取組についても、まだ最終形ではなく、各課で拾い上げられているものをピックアップして出したもので、これがすべてではなく、この中で優先順位も色々あり、これが最善のものでもないと思っている。</p>
石橋委員長	<p>各課で話し合った意見がそのまま反映された資料であり、その中の考え方の精査やそれに対するディスカッションはこれからだと思う。今後議論していただければと思う。</p>
林委員	<p>今回、各課で点数をつけて1点、2点と切りの良い点数になっているが、どういふ点数付けをされているか。例えば教育委員会では少数点なので、職員の平均点だと思われるが、他は切の良い数字であり、もし課長の一存で付けていたら、職員全員の意見が反映されないのではないか。</p>
事務局	<p>教育委員会は全職員の平均点を取っており、他の課も基本的には、同様のやり方をしている課が多い。資料1のp.1右上表のように10点満点を各分野に配分するようお願いしており、教育委員会では小数点まで分けて配分されたため、数値が細かくなっている。</p> <p>まちづくり推進課でも、全ての職員の点数を基に出している。</p>
林委員	<p>点数は町職員の個々の思いが反映されている数字とと思って良いか。</p>
事務局	<p>そうである。この会とは別に職員で幹事会を開催しているが、幹事会の主担当は課長ではなく、各課の中堅的な職員や今後活躍が期待される年代の方が参加しており、課長の意見がそのまま反映されることはない。</p>
吾郷委員	<p>6 自然環境について、教育委員会から「脱炭素への取組等、より一層力を入れる必要があると思う。」と記載があり、飯南町のような小さい町で脱炭素に取り組んでどのぐらい効果があるのか、より一層取り組む必要があるのかどうかお聞きしたい。</p> <p>5 生活環境について、福祉事務所から「移住、定住施策についても大変重要だが、町も明確に狙いを持って、呼び込む必要がある。」と記載があるが、明確な狙いとはどのような意図かお聞きしたい。</p>
事務局	<p>脱炭素の取組については加津山委員にも委員として参加していただいているが、1月に脱炭素のまち推進計画を策定し、来週辺りに自治会文書として計画の概要を配布する予定である。脱炭素は飯南町だけでなく、日本や世界の国々それぞれが2050年を目標として地球温暖化に向けて取り組むものである。飯南町は自然豊かで脱炭素ができてからやらなくてもいいということではなく、それぞれでできることを取り組む。町民アンケートでも自然について意見が多く、町民の関心が高いことを踏まえてのご意見だったと思う。</p> <p>福祉事務所の移住定住についての意見は確認を取っていないが、先ほど述べたように子育てについては評価をいただいているので、例えば子育て支援に特化した移住定住を続けていく、あるいは高齢化社会に向けて高齢者の移住も進めていくなど、どこに重きを置いた移住定住政策をするか考える必要がある、という趣</p>

	旨の意見だと思う。
加津山委員	<p>保健・医療・介護・福祉の分野について、高齢者福祉の考え方は記載があるが、障がい福祉の部分が不足している。</p> <p>教育・文化・子育てでは「飯南町から世界を舞台に活躍できる人材を育てる」となっているが、安心して子育てができる環境という意味では教育の中でも障がいを持つ子どもや最近是不登校の増加等、様々な課題があり、そうした視点が不足していると感じる。世界で活躍できる人材育成の意味とは異なるが、安心して子育てできる環境づくりの視点も政策を実行する行政側として必要だと感じた。</p>
石橋委員長	6 自然環境が最も点数が低く取組の内容も数が少ない。前回の中高生の意見ではこの辺の意見が多かった気がしており、私自身もこの辺は取り組んでいくべきだと思っている。点数が低い、見捨てず取組を検討していただきたい。

庁内での検討報告（後日回答）

当日欠席した委員から、後日意見聴取を行った。

大嶋委員	<p>【教育】</p> <p>飯南町の良いところを学んだ子どもたちが将来的に帰ってきたり、帰れなくても飯南町のことを考えてもらえる。そういう教育のサイクルが必要だと思う。</p> <p>【デジタル】</p> <p>災害のときなどに様々な伝達手段があった方がよい（告知放送は高齢者の使用率が高い）。デジタル化は時代の流れだと思うが、移行期間なので、スパッと切り替えたり切り捨てたりしないようにしてほしい。できない人を補いながら進めてほしい。</p> <p>病院のオンライン診療等あるが、医療・福祉分野は高齢者が対面で接してもらうことが良い面もあるので、デジタルまかせになってはいけない。</p> <p>【交通】</p> <p>高速ができ、バスについては町内で暮らす者が困らないようにはなっているが、外から入ったり出たりが不便。外から来る人に景色を見てもらうことが減った。交通量は減ったが走りやすいのでオートバイが増えたり、そういう活性化の方向もあると感じる。</p>
万代委員	<p>医療福祉分野だと、世代によって必要としているものが違う。また産業分野でも一次産業もあれば六次産業もある。注力する分野をどのように整理していくのか。全体に力を入れていくという考え方もあるが、K P Iを設定する場合などにどこまで踏み込んで考えるか。</p> <p>飯南町の特性を考えると、産業は農業や林業の一次産業に特化した方がよいのではないか。</p> <p>教育も、例えば世界で活躍できる人材を育てるとしたときに、どの分野で活躍</p>

	<p>できるように育てるのか。人間の基本の部分で言えば農業分野。全体として特徴づけを考えていく必要がある。</p> <p>教育・産業・医療福祉が重要なのであれば、3本柱がうまく結びつけられるとよい。</p> <p>観光分野の意見が1つだが、飯南町を体験できるようなものなど考えていくとよい。</p>
--	---

基本構想の検討について

1) 基本理念と将来像について

(事務局説明記録省略)	
石橋委員長	<p>生命地域宣言を次の総合振興計画でも基本理念として踏襲したいという考えであり、解釈を一部変えることも説明があった。将来像については、3案示していただき、それぞれの考え方が定義されている。これらについて、委員意見をそれぞれお伺いし、今後の検討に役立てたい。特に将来像の3案については好き嫌いになってしまうかもしれないが、イメージが大事であり、それでも構わないので意見を聞かせていただきたい。</p>
三上委員	<p>将来像のコンセプトはよく考えられているが、1案と2、3案は明らかに方向性が異なると解釈している。利他や余白はそういう魅力があるので来てくださいというような、他所から人が来るイメージがある。人の流入や産業が優先事項としてあり、他所から来て盛り上がるようなイメージである。</p> <p>一方で、次世代への引き継ぎは、今いる人達を大切に育てて地元で根付かせるという方向性があり、1案が実際的で良いと思う。一昔前は青年団が結成されるなど、若者が町を活気づける力になっていた時代があったことを聞いている。それはやがて廃れていき、町を牽引する若者の力がどちらかという学業や勉学に集中し、農業など産業は父親達に任せる、そういう流れがいつの間にかできてしまっている。今ある物事を次世代へ引き継ぐためには、大学進学等の選択肢を止めてまで引き継ぐ必要はないが、この地域で生活する場合の選択肢が明確に述べられ、次世代が魅力あることを判断して選択することで受け継がれていくような環境があれば良いと思う。1案は持続していくような飯南町のイメージが浮かぶので良いと思う。</p>
徳永副委員長	<p>好き嫌いと言うと1案が良いと思っており、持続可能が実現できるかどうかが一番重要な気がする。2案はわからないが、3案のブランドイメージの余白という言葉を使ってあるが、ふわっとしており、想像が膨らみすぎて具体的なイメージが湧かないので、1案が良いと思う。</p>
東委員	<p>基本理念について、中山間地域センターの生命地域宣言をつなげて考えられており、中山間地域センターができてから20数年経つ中で、当時掲げられたことがより具体的に述べられている。</p> <p>私たちの生活もこの20数年で大きく変化している中で、更新案で書かれてい</p>

	<p>る新しい価値を生み出すことは、これまでの物質的な豊かさから心の充足感、支え合い、共感など、心に視点が当てられており、これに対しても大きく同意している。</p> <p>前段で各課の話もあったが、飯南町の中ですべてを充足させていくことは、おそらく飯南町に限らずどこでも無理な話であり、これからはもう少し引いた視点で見て、雲南圏域など広くつながりながら、飯南町にないから飯南町で作るのではなく、雲南市、三次市にあったり、そういう広い視野で捉えていくことが大事だと考えている。最近よく所有からシェア、共有という話になっており、集落も元々は自分だけでなく、集落中みんなでシェアしながらやっていこうという考え方が農業の分野だけでなく、生活機能の確保でも求められており、これからの価値観、機能充足の仕方につながっていくと感じている。</p> <p>将来像の3案について、案2の利他という言葉は前回委員会で自分が発言し、取り組まないといけない大事な考え方だが、計画は皆が見るものなので、言葉のわかりやすさが求められると感じている。</p> <p>案1が直球で入ってくるという点と、前回万代委員から笑顔についての意見もあり、入ってきやすさが大事と感じた。足りないところは下の文章で捕捉すれば良いので、タイトルが大事だと感じている。</p>
林委員	<p>前回の委員会時に発言できなかったが、前回の町民アンケートの結果を見て気になる点がありメールで意見を送った。</p> <p>子どもが飯南町の自然がすごいと共感している点は素敵だと思うが、一方で将来飯南町に住みたいかといったらそうではなく、約8割は外に出たいという意見であり、これを解決しないとイケない。それを前提とした場合に、今回の基本理念で新しい価値を生み出す、豊かさの先進地を目指すという言葉は、飯南町を出たいと思っている人達にとって、新しいものができるのであれば残りたいと思えるようなイメージを持つので、この言葉は良いと思った。</p> <p>一方で将来像はその辺りが伝わりにくい。飯南町の未来への理想は持っているが、将来出ていきたいという子ども達に対して、飯南町にいて幸せになれることが伝わりづらいと思う。</p> <p>豊かさを持続させないとイケないので、案1の持続可能が非常に良いと思うが、案3の新しい豊かさの先進地という言葉も混ぜて、将来飯南町を出たいと思っている人達にとって、残っていれば楽しいことがあると思えるようなブランドイメージ、コンセプトになっていたら良いと思った。</p>
影山委員	<p>案1は自分の考え方と合致している。子ども達が将来帰ってくるかどうかの動機として、例えばデパート、百貨店など新しい産業があることも一つあると思うが、自分が帰ってきた理由はそれとは違った。住んでいるのは小さい集落だが、自治会の中で小さい頃から様々な地域行事に参加し、地域の大人と一緒に楽しんだ。大人になり、飯南町全体では子どもが少なくなって、継続が大変になるので、自分も帰って参加しようという気持ちに繋がった。</p> <p>住んでいる自治会では個人的に計算した中では人口減少率がマイナスであり、</p>

	<p>10 年前から増加している。同世代と話をする中で、自分達が子どもだった頃の親世代は地域の中で様々な活動を楽しみながらしている印象が強い。</p> <p>下り島の保賀というところだが、地域の中で大人が様々な計画をされ、自分達も一緒に楽しんで、継続しており、地域に住む子ども達と一緒にの行事も現在している途中である。そうしたことを踏まえて、飯南町で住む上で経済的なことも大事だが、案 1 の笑顔や地域活動を次へ引き継いでいくという考え方は根底的に一番大事だと思う。</p>
芥川委員	<p>主人は大阪出身の 1 ターン者で、自分は母の実家が頓原で育ちは広島が長かったが、就職して主人と出会い、なんとなく飯南町に帰ってきた。きっかけは主人の提案で、自分を出て行った側だが、今定住者が増加しており、理由は人それぞれだが、飯南町に何か魅力を感じて来られたと思う。</p> <p>具体的には難しいが、地元の方から定住者への風当たりがきつい部分もあると正直感じている。これから生きる若い世代が持つ価値観も大事だと思っている。私自身は古い感覚だと思うが、若い世代は割と柔軟だと思う。若い世代を見ると、例えば障がいのある方や多様性に対する受け皿は私より 100 倍以上あり、割と寛容なので、その若い世代が外に出て新しい風を持って来る予感がしている。若い世代が帰ってこられる基盤を私達のような父母、祖父母世代が考えていけないといけないと思うので、次世代への引き継ぎというテーマと外から入ってくる新しい風を受け入れるような余白は両方大事な事柄だと感じた。</p>
今岡委員	<p>70 歳を超えており、将来的な 10 年先のことは分からないが、文字数が多いと読みにくいので簡潔にして、説明文は多くても 2 つまでにしてほしい。詳細に書いてあると読む気にならない。大切なことが書いてあるが、あまり詳細に書いても押し付けになってしまうので、ある程度町民が考えて行動できるような文言にした方が良い。</p>
加津山委員	<p>案 1 については、はっきりした形が書いてあり分かりやすいと感じた。先ほど影山委員や芥川委員の話聞いて共感する部分があったが、ブランドメッセージとして余白を打ち出している飯南町としては、余白も共通して使っていくテーマだと思うので、1 案、3 案を組み合わせ考えていただきたい。</p>
吾郷委員	<p>個人的に余白が好きなので、余白を使った案 3 が良いと思ったが、副委員長も言われたようにおんぼらとしており、余白を知らない人には伝わりにくく、考えないと行動に移せないところもある。東委員が言われた新しい豊かさの先進地は良いので残しておきたいと思った。案 2 の共に暮らし支え合う町はもうできていると思うので、次に行く意味では案 1 の未来へつなぐ町はわかりやすく、案 3 と混ぜて文字数を減らし、すぐ行動に移せるようなものができれば良いと思う。</p>
石橋委員長	<p>基本理念の前段で課題が 6 点整理されているが、項目だけ見ると飯南町に特化した課題ではなく、どこにでもある課題が整理されていると感じる。飯南町にも当てはまることだと思うが、先ほど林委員が言われたように良い所だと思っているが住みたいとは思わないという高校生の意見など、この地域ならではの課題がアンケートから分かれば、その辺を整理すると、将来像を作る後押しになる気</p>

	<p>がする。</p> <p>基本理念について生命地域宣言を踏襲することは、先ほど皆さんの意見にもあったように解釈を変えながらやっていくことは良いと思う。生命地域という言葉は説明が必要な言葉であり、20年来続いていることだが、どう説明するかはその都度考え方を整理していけば良いと思う。</p> <p>将来像については、案1が良いと思う。持続可能という言葉が個人的にはあまり好きではないので、もう少し良い言葉があると良いとは思いますが、考え方は大事だと思う。余白に関しては、ブランドイメージであるが、まだ定着してない部分があるので、どう定着させるかも含めて取り扱いを考える必要がある。</p>
事務局	<p>頂いた意見を検証しながら、次回提案させていただきたい。</p> <p>基本理念の下にボディメッセージを載せており、総合振興計画の中にも記載されると思うが、p.7 将来像の案1、2、3の下に記載している説明書きについては、今回の委員会での説明資料であり、計画書への載せ方は変わってくるのでご了承ください。</p>

基本理念の検討について（後日回答）

当日欠席した委員から、後日意見聴取を行った。

大嶋委員	現状維持だけでなく、新しい価値を生み出すというのは進歩的でよい。
万代委員	基本理念については、「小さな」を言う必要があるかなというものはある。本文を変更するのは良いと思う。

2) 将来像を実現するための基本的な考え方について

（事務局説明記録省略）

徳永副委員長	将来像を実現するための大切な考え方は体系的に政策分野の上に来るようなイメージか。
事務局	そうである。
徳永副委員長	<p>前回アンケートの中で町職員に対する評価が低いということがあり、そう思わせていることが残念だと思っている。世の中はデジタルの力を活用しようということで、ここでもデジタルの力を活用してより便利に暮らせる町を作りますとあり、住民に対してそういうイメージを持つが、庁舎の中もデジタル化を進めていき、もっと職員に余裕ができ、色々なものに追われることなく、住民に向かって対応できるような環境をデジタルの力で作れないかと思った。そのために予算が必要だと思うが、総合振興計画の中に織り込めると良いと思った。</p>
石橋委員長	資料2の自治協働の基本施策 健全で効率的な行政運営の推進の重要な取り組みとして、DXの推進によるBPRの実施により行政運営の効率化を検討とあるが、これはどういう意味合いか。

事務局	<p>DX は、デジタルトランスフォーメーションの略だが、デジタル化を推進するという意味合いである。BPR は業務改革という意味合いで、デジタル化によって業務改革を推進し、行政運営の効率化を検討していく、評価して変えられるところは変えていくという意味合いである。</p>
三上委員	<p>大切な考え方の①に関して、未来へ引き継げる持続可能なまちづくりという点について、②③にも関わってくるので、お話したい。</p> <p>未来へ引き継ぐことを念頭に置いたとき、引き継ごうとしているものに価値があり、誇りや楽しいという思いがないと引き継げないと思っている。農業人口の減少も、農業は儲からないというようなことを子ども達が聞いていけば、それは引き継ぐ価値がないものだ判断される。未来へ引き継ぐ持続可能なものとするのであれば、その価値や本当に楽しいという思いや誇りを持って産業など、未来へ繋げられるという根拠を明確に示したようなまちづくりがあれば良いと思う。</p> <p>世代を超えて活躍できる、子どもから大人までと記載があるが、実際は高齢者がとても頑張っており、若者はなかなか見ることがないのが現実がある。若者が活躍でき、健全な新陳代謝が起こるような町であることが必要だと思う。年配の方の頑張りに助けられているが、頑張りすぎて次の若者へつながっていないような実情もあると感じる。年配の方は知識や経験や見識を気力や精力があるうちに伝えられるだけ伝えて、次の若者達にそれが受け継がれていくような環境があれば良いと思う。</p> <p>③に戻ってきたいと思えるためにも、とあるので、自分が戻ってくるという選択肢が念頭に上がる地域であると良い。子どもの頃の思い出が①②で引き継がれているので、自分のことやふるさとのことを考えたときに戻るという動機付けがあるように、もっと地域に戻る期待をしても良いと思う。飯南町に帰ってきて何も無いけど良かったら、というようなことではなく、明確に帰ってきてほしいことが選択肢として、こちらからのアピールがあっても良いと思う。例えば先祖から受け継いだ農耕地を荒らすわけにはいけないので、その農地に関してもったいないと思ったり、農業に携わったり大切なものとして守ってきたということを正直に話してそれを引き継ぐかどうかは選択肢として自由にして良いと思うが、それを放棄して何か受け継ぐ人がいないというのは残念な気がする。</p> <p>①②③に関しては受け継ぐなら自信を持って受け継がせる、そしてこのことをやってほしいという期待を込めて選択肢の一つとして提供する、気力があるうちに次の世代に引き継ぎ、新陳代謝を起こすということが必要だと思う。</p>
東委員	<p>初めの挨拶でもあったように 1 月 1 日に震災があった。神戸出身なので阪神淡路大震災も今年で 29 年目になって、東日本大震災もあり、防災・災害に備えるという点では福祉も地域づくりも産業も農業の方も関わってくることを感じる。飯南町ではこれまで大きな災害はなかったが、災害が起きている近年は住民の関心が高く、中山間地域センターにも防災の話をしてほしいと依頼が多く来る。社協の吾郷委員もいつも言われているが、災害があつて急に支え合いはできないので、普段から支え合いをしておく必要があるということで、そういう考え</p>

	<p>方は少しずつ入っているが、入れていきたい。</p> <p>関係人口という言葉は好きな言葉ではないが、地域のことを応援してくれる方が飯南町では他の自治体と比べても多く、森林セラピーやスキー場もあり、高速ができて往来は減ったが、地域を応援してくれる人たちの思いもつなげていきたい。出身者の方の思いも特に拾えると良い。一昨年、広島出身者会の赤来広島会が解散した。ふるさとへ思いをつなげることが難しくなる中で、色々な事情があって帰ってこれない方々の思いも計画の中に入れて、一言あることによってそういった人の思いも受け止めることができる計画になると良い。住んでいる方が基本だが、それに加えて出身者の思いも拾えるようなことが計画の中でできたら良いと思った。</p>
吾郷委員	<p>高齢者の福祉事業所も多くあり、民生児童委員が一人暮らしの方に手厚い訪問もされており、電話すれば保健福祉課は社協、福祉事業所、ケアマネジャーとも連携がとれ、高齢者は恵まれていると思っているが、それに対して障がいのサービスが他の市町村と比べて少なく、④に高齢になっても、障がいがあっても、というように、障がいも入れた方が意識的にできると思った。ソフト面でも生活の環境を整えていきますとあるが、障がいの理解を進めることを、社協でも子どもたちに対して福祉学習をしており、案外子ども達の方が障がいへの理解をされているところもあるが、上の世代では男尊女卑、障がいの方に理解が得られていない感じが見受けられることもあるので、ソフト面も対応して LGBT も含め、理解を深めていくことが大事だと思った。高齢になってもの文言の後に付け加えていただきたい。</p>
加津山委員	<p>同じ視点だが、前の職場で特別支援教育、児童福祉をしていた経験があり、先ほど吾郷委員が言われたように、高齢になっても、障がいがあってもではなく、誰もがで良いと思う。安心して子育てができ、安心して高齢になれる地域社会が飯南町にはあるということが大事であり、そういう意味では地域住民が自助・共助・公助の中で享受し合う関係がすでにあり、その上で高齢の方や障がいのある方も含めて全ての人が安心して暮らせる社会がある地域になると良いと感じる。</p>
影山委員	<p>p.2 の課題や p.8 の大切な考え方について、飯南町全体で考えないといけないことがある一方で小さなコミュニティの自治体員や加津山委員が言われた共助の自治の部分も考えていかないといけない。資料 2 の 1 自治協働の基本施策 1-5 小さな拠点の形成について、今後 10 年間で重要な取り込み（庁内各課での提案）として、何も記載されていないことが気になった。小さな拠点の形成の所管はまちづくり推進課だと思うが、小さな拠点に対する現行計画の中での考え方を教えてほしい。また記載がないことについて、もうすでに達成できているという考えも年度末の会で話されたと思うが、何をもって達成しており、記載がないことにつながるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>現行計画での小さな拠点は県でもそうだが、できるだけ広い拠点を作りたいと思っている。県ではエリアを 2000 人程度として示されているが、飯南町ではそこまで広くすると難しいため、公民館単位で 5 つのエリアを小さな拠点の単位</p>

	<p>として考えている。取組については、既に形成済みが2地区あり、できかけているところが1地区だと認識しており、頓原と赤名は少し遅れている。</p> <p>取組自体をやめるということではなく、それぞれの地域の事情もあり、差が出ているが、各地域に合わせて進めていく必要があると思っている。</p> <p>今回、施策全体を見る中で、教育や子育てや産業など、課題や危機感がある施策に議論が集中したこともあり、自治協働も大事であり継続しながら、他の施策も重点的に行っていく必要がある。今回は置いていたが決してないがしろにするつもりはなく、総合振興計画の次期計画の中でどう表現するかはまだ決まっていないが、盛り込む必要があると思っている。</p>
林委員	<p>将来像を実現するための大切な考え方について、個人的にはデジタルに関わっているのが、デジタルの力を活用が入っているのは良いと思うが、違う視点で見ると、物事を続けるためには楽しくないと続かないので、どう反映すれば良いかまでは言えないが、町民が皆楽しんでできるようなものを出せると続いていくと思う。やらされ感でやっても面白くないので、どうせやるなら皆で楽しみながら町を作っていけるようなことがうまく表現できると良い。将来像は飯南町の10年をこうしますというように堅くなく、みんなで楽しんでそれを作っていくというのが出せると、町民も面白そうだから一緒にやろうと思ってくれると思う。計画全体的にそうなるが良い。</p>
今岡委員	<p>設定におけるキーワードとして、前例のない企業と記載があるがどういう意図か。</p> <p>③に産業を活性化させてとあるが、仕組みは誰が考え、仕掛けを誰がするか。</p> <p>⑤に美しい里山と記載があるが、美しい里山は誰が作るか。</p> <p>⑥について、この間農業委員会の関係で訪問した家に、夫婦で定年退職して都会から帰ってきた方がおられ、銀行決済、郵便局など全てスマートフォンを使っているという話をしておられた。それは都会で使い慣れているからできるが、田舎の同年代でできる人は一部である。将来的にデジタル化して、集落の何パーセントが活用できるか。前回委員会でも話したが、高齢者はデジタルと聞くと躊躇してしまうのでその辺りも考慮してほしい。</p>
事務局	<p>前例のない企業については、飯南みらいばなしのワークショップをした際に来島会場で高校生が多く参加され、飯南町の将来として、休みが取りやすく前例のない企業があると良いという意見が出た。働き方改革という意味合いだと思うが、飯南町がワークライフバランスの整った良い町になると良いという意見が出ており、そこからきている。</p>
今岡委員	<p>産業活性化と文面で簡単に書いてあるが、誰が行うのか。こういう書き方をすると他人任せな感じがする。</p>
事務局	<p>本日の時点では、課題解決のために、なにが必要かという協議であり、その下で具体的に何を進めていくかは来年度検討する。現時点でわかりにくく、疑問に思われるかもしれないが、現段階では残させていただきたい。</p>

石橋委員長	<p>計画を策定した以上は、どうやってそれを達成していくかを考えながら計画を作ると、より生きた計画になるということだと思うので、そういう考え方で市内でも検討していただきたい。</p>
芥川委員	<p>②の世代を超えて誰もが活躍できるまちをつくれますのところについて、石橋委員長の話もあったが、飯南町に帰ってこない原因として高齢者や地元の方が疲弊していることがあると思った。人数が少ないので地域の役など仕事以外の活動の負担が多く、それを子ども達が見て不安に陥ることは正直あると思う。実際に祖父母世代とその若夫婦が同居する中で、若夫婦には負担をかけないよう地域に関わらせないことが結構あると思う。年月が過ぎて、地域に関わる機会のないまま父母が亡くなって自分の代になり、地域のことをわからないまま年を取っていくようなことがある。これは家庭内のことなので行政が関わることは難しいと思うが、実際そういうことを見ることもある。自分達がどう我が事として参加できるかがこれから課題になる。</p> <p>③の産業を活性化させてというところだが、飯南町に多くある事業所の中で企業努力としてやっているところもあり、例えば働き方改革として企業が独自に努力をしてPRをしているところもある。災害が起こりやすい中で、勤めている建設業の会社では、災害復旧のためにいち早く出勤して貢献していることを飯南高校や職場体験に来る中学生に向けて伝えている。地域貢献していることや違う側面でも活躍ができることを伝えており、それが町内の業者で全体的にできれば、帰ってきて働いて何かあった時には自分たちが貢献できる、そういう将来像を子ども達が描けるようなPRができたら良いと思う。</p>
三上委員	<p>PTA 代表として来ており、先ほど前例のない企業が高校生の発想だと聞いて、発言させていただく。前例のない企業を飯南町に誘致するとしたらデジタルの力が不可欠である。GAF A のように福利厚生が豊かなことにより家の中で仕事が完結して自由な時間が増える、その為にはデジタルの力が肝要だと思う。奇策として、データセンターを設置する話を聞いたが、そういう画期的なことが可能かどうかは計画の段階で模索していったらどうか。高校生の意見を拾って、若い世代が本当にそんなことができるんだ、となると、他所に行かずに済むのではないかなと思うので、計画の展望が少しでもあれば、拾っておきたい。</p>
林委員	<p>三上委員がデータセンターの話をしたが、前回委員会後に思いつきでデータセンターの話をしてきた。Amazon、Google 等クラウドのデータセンターは国内でも多くある。データセンターにはコンピューターが多く設置され、熱を発するため、冷却が重要だが、飯南町は標高が高く気温が低く、冬も北海道では雪を使って建物の内部を冷やす取組をしているところもある。同様の発想で考えると飯南町にも土地はあるので、例えば Amazon のデータセンターが建てば、そこで雇用が生まれ、新しいレストランや商業施設ができたり、そういう風になっていくと良いと考えていた。データセンターができれば、飯南町は面白いとなって、県外から高校に入る子も増えるかもしれない。</p> <p>県にいるのでよくわかるが、県や市町村では住民税のシステム等、様々なシス</p>

	<p>テムをデジタルで作っており、大抵地場のメーカーが構築している。メーカーをより近くに置きたいという意識が強く、何かあった時にすぐ駆けつけて、不具合を見られるからだが、そういう意味で考えるとデータセンターが飯南町にあり、その横に町の基幹システムを扱う会社があり、飯南町はそのシステムを使うとなると、そこでも雇用が生まれる。飯南町も不具合があれば地場の企業にすぐに見てもらえ、効率が良くなったりする。突拍子もない意見だが、そういうのが実現すると面白いと思った。</p>
三上委員	<p>データセンターができればギガになり、ネットのインフラが整うことで他企業も誘致できる。高校生の意見は画期的だと思った。企業誘致のデータセンター設置は有効だと思う。</p>
林委員	<p>実際に実現可能かわからないが、そういう考えはあっても良いと思う。デジタル以外でも高校生の興味も色々あり、そういう子ども達の意見を聞いて気づかされることもあるので、また意見を聞いてみたいと思った。</p>
石橋委員長	<p>大切な考え方の③産業について、課題の中で記載があるが、農業をどういう扱いにするかを考えてほしい。課題の中で町の基盤産業である農業と記載があるが、基盤産業か基幹産業かお荷物産業かわからないところがあり、整理する中で農業の扱いや農村風景の保全のところも少し変わってくると思う。農業は生産の目的もあるが、最近あまり言われなくなった公益的機能の保全という大事な目的があり、水源涵養、景観の問題もあるが、その辺をどう扱うか検討いただきたい。</p> <p>また、町内の8割9割を占める森林についてほとんど触れられていないので、何らかの形で触れておいた方が、将来的に貴重な資源になるかどうかかわからないが、逃げずに考えてほしい。</p> <p>デジタルについては、苦手な分野だが、高齢者にとってハードルが高いこともある。確定申告の時期で、確定申告のデジタル化が進んでおり、スマホを使ってQRコードを読み込めばパソコンでそのまま申告できるということを今年見つけ、試しにe-Taxで申告をやってみたが、いきなりQRコードが読めず、ネットで調べてみるとQRコードを更新すれば読めると書いてあったので何回更新しても読み止めず、諦めたぐらいになぜか読み込めたということがあった。要はやるうと思った時に、できれば電話でつながるようなサポートがあると良いと思った。最近チャットでの相談もあるが、電話で声を聞いて画面見ながら教えてもらう安心感に勝るものはないと思っている。確定申告に関して言えば、連携すれば源泉徴収票、生命保険の証明書、損害保険の証明書、ふるさと納税の寄付金額まで全部データで読み込め、何も資料を揃えなくても確定申告ができるという仕組みになっているそうだが、生命保険の証明書を読み込もうとしたが、一切読み込めなかった。知らないうちにデジタルで色々便利にできるようになってきていることをこの度の確定申告で実感した。できることからやっていけば非常に便利だと思ったが、声で支えてくれる仕組みが充実すれば気軽に使えるようになり、デジタル化が進むような気がした。</p>

将来像の検討について（後日回答）

当日欠席した委員から、後日意見聴取を行った。

大嶋委員	どれも大切なテーマが書かれている。支え合いは皆さんやっておられる。厳しい10年間になると思うが、笑顔があり持続可能なまちになるとよい。
万代委員	将来像は案3がインパクトがある。ただ、笑顔という言葉もどこかに残したい。 余白は、飯南町が大切にしている言葉が前面にあってよい。 基本理念と繋がる考え方がよい。案1だと、基本理念で余白と言っているのに、突然当たり障りのないものとなる。 案1はどここのまちでも使えるが、余白と聞くと飯南町がイメージできる。 新しい視点で持続可能なまちをつくるという考え方がよいのでは。 余白はふわっとした表現だが、あえてわからなくしておくことで興味をひくというやり方もある。 笑顔を入れた案3の改良型がよい。 将来像や大切な考え方と、教育や産業などの個別の施策で整合性がとれるとよい。

4. 閉会

事務局	徳永副委員長が職場の都合により、飯南町を離れることになり、今回を持って委員を退任されることとなった。徳永副委員長にはこれまで長年に渡り、評価委員も務めていただき、町政の推進に多大なる貢献を頂いた。
徳永副委員長	ご紹介いただいた通り、この度の異動で第3次総合振興計画策定委員を退任させていただく。第2次総合振興計画の評価委員から参加させていただいた経験は、私にとって山陰合同銀行の経営理念でもある、地域の夢、お客様の夢を叶える創造的なベストバンクということ胸に、飯南町の発展に寄与するために非常に重要な経験をさせていただいた。第3次総合振興計画策定という重要な時期での退任は大変心残りではあるが、後任にはしっかり引き継ぎをすることを約束させていただく。最後に飯南町の皆様、関係者の皆様、改めて心から感謝を申し上げます。退任後も山陰合同銀行と飯南町との連携が一層深く進んで、地域の繁栄に貢献することと、地域発展の実現のために、この総合振興計画の実現を目指していただきたい。この策定が進んでいくことを願って、私の挨拶をさせていただく。本当にありがとうございました。